



さび面素地調整軽減エポキシ樹脂プライマー

トアラストバリア

近年、化学プラントなどの腐食対策費が増大しています。鉄部を塗り替える際、素地調整としてさびを十分に除去するのが理想ですが、動力工具が使用できない火気厳禁箇所や、動力工具が入らない箇所などは十分な素地調整が行えません。今回開発した「トアラストバリア」は、さび層に浸透して被覆し、腐食因子の侵入を抑えるとともに、塗膜の防食性が優れていることで、さびの進行を抑制することができます。

防せい力

さび面に浸透し、腐食因子の侵入を抑えます。
塗膜の防食性が優れていることで、さびの進行を抑制します。

弱溶剤塗料

旧塗膜を選ばないので塗り替えに最適です。
鉛・クロムなどの重金属を配合しない人・環境に優しい塗料です。

幅広い金属に 適用可能

亜鉛めっき・ステンレス・アルミなど幅広い非鉄金属に適用できます。

低温乾燥性

低温乾燥性に優れています。5℃で翌日、上塗りを塗装できます。

「トアラストバリア」は株式会社トウペの登録商標です。



株式会社トウペ

ホームページ <http://www.tohope.co.jp>

本社
東京事務所

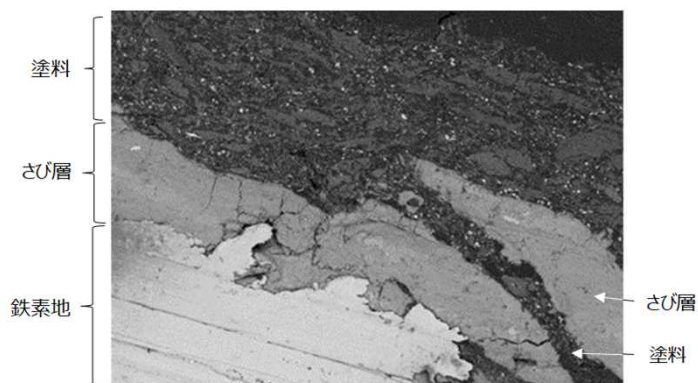
〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町一丁5番地11
〒110-0015 東京都台東区東上野6丁目16番10号KBビル

Tel. (072)243-6411
Tel. (03)3847-6441

特長

■ さび層への浸透について

従来のエポキシ樹脂塗料では、さび面に塗装した場合、さび層への十分な浸透が得られず、空洞が残ります。空洞には、酸素や水分が存在し、塗装された後の塗膜下で腐食が進行します。トアラストバリアは、さび層に十分に浸透し、空洞は見られません。



さび面にトアラストバリアを塗装した断面

■ 防食性 I（屋外暴露）

* 暴露場所 弊社三重研究所内(三重県伊賀市柘植町2700)

暴露2年後の状態



一般変性エポキシ樹脂塗料下塗



トアラストバリア



塗装前の鋼材の状態

* さび鋼板に対し、ワイヤーブラシで表層さびを除去したのみ
* さび止め塗料の膜厚：60μm

■ 防食性 II（屋内試験）

工程	仕様1	仕様2	仕様3	仕様4
1層目	トアラストバリア (240g/m ²)	低ケレン面用 塗料 A (100g/m ²)	低ケレン面用 塗料 B (100g/m ²)	—
2層目	弱溶剤厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗(120μm)			
3層目	弱溶剤厚膜形ふっ素樹脂塗料上塗(55μm)			
サイクル 腐食性試験 500サイクル	外観			
	一般部	異常なし	膨れ・点さび	膨れ・点さび
	カット部劣化幅 (mm)	4	4	6
	付着性	分類1	分類1	分類1



さび鋼板(ケレン前)



ケレン後

塗装前の鋼材の状態

* 本データは弊社評価結果であり保証値ではありません。

塗料性状

項目	トアラストバリア			
適合規格	社内規格			
混合比	A(主剤) : B(硬化剤) = 9 : 1			
塗装方法	はけ、ローラー			
標準膜厚(μm/回)	60			
標準塗布量(g/m ² /回)	240			
希釈剤	ペイントシンナー			
希釈率(%)	0 ~ 10			
乾燥時間		5℃	23℃	30℃
	指触	4時間	1時間	0.5時間
	硬化	16時間	6時間	4時間
塗装間隔	下限	24時間	16時間	12時間
	上限	30日	30日	30日
可使時間	8時間	5時間	3時間	
密度(g/ml)	1.32			
有機溶剤中毒予防規則に基づく表示	A(主剤)、B(硬化剤) 第3種有機溶剤等			
消防法による危険物の表示	A(主剤) 指定可燃物(可燃性液体類)			
	B(硬化剤) 第四類第二石油類			

荷姿・色相

荷姿
18kgセット A(主剤) : 16.2kg B(硬化剤) : 1.8kg
色相
グレー

【使用上の注意事項】

- 気温5℃以下、湿度85%以上では塗装しないでください。
- 塗装中又は塗装後、塗膜が乾燥する前に降雨、結露などが予想される場合は、塗装作業を中止してください。
- A(主剤)とB(硬化剤)の混合比は正確に行ってください。A(主剤)とB(硬化剤)の混合比が異なると、硬化不良等のトラブルを誘発する原因となりますのでご注意ください。
- 硬化剤は活性が強いので開封後は、できるだけ早目に使用してください。
- 硬化剤を開封した状態で放置すると活性が失われ硬化不良の原因になります。
- 塗料の混合は十分に行ってください。混合が不十分の場合、硬化不良の原因になります。
- 製品説明書に示された可使時間を厳守してください。
- 塗り重ねを行う場合は、下塗り塗膜が十分に硬化していることを確認してから塗装してください。
- 皮膚に付くと人によってはかぶれを起こすことがありますので、皮膚に付かないよう取扱いに注意してください。
- 浮いたさび、浮いた塗膜、旧塗膜のさび劣化部分などは完全に除去してください。
- 塗装器具類の洗浄には、ラッカーシンナーなどの溶解性の高いシンナーで行うと容易に洗浄できます。
- 洗浄で用いたラッカーシンナーなどの溶解性の高いシンナーを混合した塗料には混入しないでください。

■ 安全衛生上の注意事項、その他の注意事項につきましては、製品安全データシート(SDS)をご参照ください。